

佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港130周年に寄せて

ことしは明治22(1889)年7月1日に旧海軍佐世保鎮守府が開庁してから130周年の記念の年であり、この開庁をもって佐世保港の開港とする一般的な説からすると、佐世保港開港130周年



弓張岳から望む佐世保港

とすることもできます。さらに明治22年は明治憲法下で町村制が施行され、佐世保市の前身である東彼杵郡佐世保村の村制が施行された年でもあります。

その後、佐世保港は旧日本海軍の要港として急速に整備され、これに伴い佐世保村の人口は4万人を超え、明治35年には町制を経ず一気に市制を施行し、佐世保市となりました。そして、昭和20(1945)年の終戦を迎えるまでは軍港としての整備が続けられ、ほぼ今の港が形成され、人口も約30万人まで増加することになりました。

この開港前後の歴史については、本紙今月号の特集でも紹介していますが、私は市民の皆さんがこの節目の年を佐世保市や佐世保港の歴史を知るきっかけの年にしてほしいと思っています。そして、このことよって本市の未来を考える市民が増え、これからのまちづくりにつながっていくことを期待しています。それは自分の誕生日にこれまでの生きざまを振り返り、

これからの自分の生き方を考えることに似ているかもしれません。開港130周年を迎えた現在の佐世保港は、米海軍佐世保基地や海上自衛隊佐世保基地、陸上自衛隊崎辺分屯地(仮称)、海上保安部、近海・離島航路ターミナル、佐世保港国際ターミナル(三浦地区)、針尾浦頭地区に建設予定の新国際ターミナル、SSKや中小造船所、干尽・前畑の倉庫群、東浜の水産加工所群、ハマチやカキの海面養殖、赤マテ貝漁など、さまざまな機能を有する日本本土最西端の重要な港になっています。

私たち佐世保市民は、この130周年を機に、7つの海に通じる素晴らしい港を与えてくれた自然と先人たちに感謝しなければならぬと思います。そして、これから20年後の150周年の佐世保港に思いをはせながら、その50年後の200周年を祝う未来の市民にも感謝されるような佐世保港を現在の市民一丸となって築いていきましょう。

佐世保市長 朝長 則男

シリーズ 世界で最も美しい湾、九十九島 7

九十九島と市民活動

「九十九島ボランティアガイド」「九十九島の会」
柴田 昭隆 さん

初めて観光船に乗ったとき、九十九島の美しさに感動し、この感激を多くの人と分かち合いたいと思い、九十九島を紹介するボランティアガイドを始めました。

観光船のお客さまは湖のように静かな海にびっぴりします。「今日は特別に波が穏やかなのですか」「ご覧の島々が外洋からの波を消してくれているのです」。お客さまとの会話はこんなことから始まります。

約50分間の九十九島遊覧の後、満足気に下船するお客さまに「お友達にも九十九島の良さを伝えてください」とお願いすることを忘れません。お客さまによる宣伝に勝るものはないと思うからです。

話は変わりますが、「九十九島の会」というボランティア団体は、島々の漂着ごみの清掃・環境保全、島の植物や鳥の観察・調査、子どもたちと無人島へ渡り九十九島の自然に親しませる、九十九島の魅力を発信するなどの活動を行っています。観光船ガイドが表舞台とすれば、「九十九島の会」の活動は裏方と言ってもいいかもしれません。

私はその両方の活動に参加していますが、ボランティア活動は自分が楽しいと感じること、マイペースで参加できることが基本です。そうでなければ、長続きしません。奉仕とか貢献とかの堅苦しいことは抜きにして、興味があったら参加することから始めたらよいと思います。



観光課 ☎ 24-1111

シリーズ 佐世保の水事情と石木ダム 9

石木ダム建設事業の進捗状況

昭和50年から着手している石木ダム建設事業は、当初、建設予定地にお住まいの67世帯の全員が建設に反対されていましたが、現在までに全体の8割以上にあたる54世帯の方々にご協力いただき、その方々は既に移転されています。住み慣れた故郷での生活を切望されていましたが、平成2年の川棚町の洪水被害を目の当たりにされ、断腸の思いでご協力をいただきました。

現在、このようなご協力をいただいた土地(現在は長崎県が管理している土地)で、県が県道嬉野川棚線の付替え工事(ダム建設に伴い水没する道路を事前に付け替える工事)を進めています。

工事着手以降、事業に反対する方々による妨害行為が行われ、妨害を禁止する裁判所の判断が示された以降も続いていることから、思うように作業が進められない状況が続いていますが、平成30年度中に予定していた作業はなんとか完了できる見通しとなっています。

また、石木ダム建設に合わせて、佐世保市でも浄水場や取水場を新たに整備する必要があります。

佐世保市では、既にこれらの施設の建設に必要な用地は全て確保していますので、ダム本体工事の進捗に合わせて、いつでも整備を進められる準備ができています。



現在の石木ダム建設事業の様子

水道局総務課、水源対策・企画課 ☎ 24-1151

人の動き(1月1日現在)

- 総人口 249,263人(前月比 -157人)
男性 118,099人(-69人) 女性 131,164人(-88人)
- 世帯数 105,490世帯(前月比 -56世帯)
- 12月中の動き
転入 470人、転出 543人 出生 188人、死亡 272人

広報番組



YouTube版

プレゼント応募

徳育通信 84 聞いて「徳」する話 45 あいさつは心を通わす第一歩

以前、ある方から私の職場に「あいさつが少ない」とのご意見をいただいたことがあり、それ以来私は必ずすれ違う人にあいさつをするよう心掛けています。あいさつを続けている中で最近気付いたことがあり、それは大人の日本人の方があいさつをあまり返してくれないということです。子どもたちに「こんにちは」と声を掛けると元気な声で返事をしてくれますが、あいさつをされた大人は意外そうな顔を向けてうつむいたり、返事をしたりするなど、人によってその反応はさまざまです。ここで私が問題に思うことは、「意外そうな顔を向けて」ということです。「あいさつが少ない」と問題を提起する人がいる一方で、あいさつをされると意外そうな顔をする大人がいる。これはいかにと感じています。

佐世保には日本人の他にもたくさんの外国人と一緒に暮らしています。まちなかでふとした時に外国の方と目が合うと、ニコッと笑顔を向けてくれる方が多い印象です。言葉は通じないけど、アイコンタクトであいさつを交わした気分になります。文化的な違いはあるにせよ、こうした心を通わせる行為は、人を思うということの第一歩になるのではないのでしょうか。

(匿名)

「聞いて徳する話」を募集中です。応募用紙は徳育推進会議事務局で配布し、市ホームページからダウンロードすることもできます。
佐世保徳育推進会議 ☎ 23-2856